

住民の声が届く市政へ

北部の

病院のこせ!

川西市立総合医療センター基本構想(案)に対するパブリックコメントには、136人から341件の意見が提出されました。「高度医療や全室個室化の必要性を問う」意見などが31%、「北部での存続を求める」意見が全体の24%を占めました。

2019年度予算への要望書提出



活かせ!憲法 越田市長と懇談

日本共産党議員団は、市として憲法遵守・住民が主人公・基本的人権を堅持、遂行する5項目の重点要求を強く求めました。国や県、市政に対して163項目の要望に加え、能勢電鉄、阪急バス、JR、警察、関西エアポート等に、市民の要求実現に向け働きかけるよう求めました。



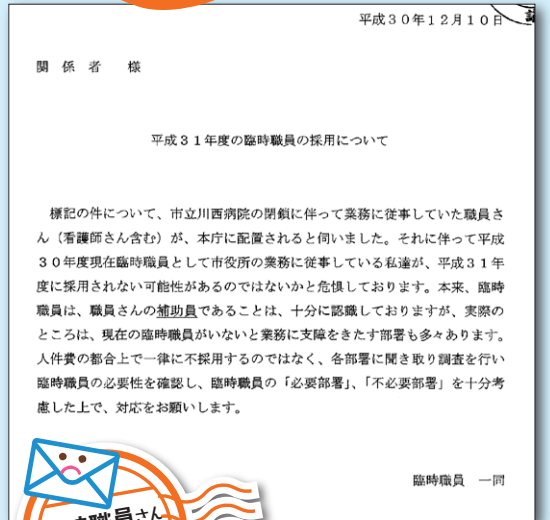
越田市長は、情報公開と説明責任を果たす98億円のコスト増の説明と見直し 北部医療の確保 市民と共に信頼される病院をつくと説明。しかし、「今までの基本構想と大きく方向性は変わらない」としました。

問題が山積み

職員281人解雇

12月議会、4月から現病院の管理・運営を協和会(協立病院)に委託するため、医師・看護師・医療技術者全員解雇のための条例改定・議案が可決されました。職員は、協和会職員になるか、市役所事務職へ転職するか、退職するかを選択を余儀なくされます。1月10日時点で、正規医師27名は大学医局の動向確認中。看護師は51%、技術者は54%しか協和会に移行せず、春からの病院運営が懸念されます。

その上、市都合による解雇のため、退職金上乘せ、給与差額補填、本庁移転職員人件費などで6億円を超える新たな財政支出。職員異動のしわ寄せで臨時職員が解雇されるなど問題は山積みです。(議案反対:黒田・北野・吉岡・吉富・中曽の5議員)



北部の医療はどうなるの?

市長は、「北部から2次救急がなくなるのは大きな問題」としながら、北部は診療所だけ(内科1診のみ24時間、他は午前診)、「病院経営が問題ではなく、市財政が病院を支える状況にないことが本質的な問題」と明らかにしながら、診療所からキセラヘシャトルバス・能勢口からキセラへ周遊バス運行とさらに税金投入する予定です。

住民の声や願いは聞かないまま

こどもが喘息、アレルギーの母親から心臓疾患の高齢者まで、世代を問わず、北部の2次救急病院の存続を求める切実な声が多数。少子化対策や街づくり、自然災害やパンデミック(感染爆発)に対応する北部の病院が絶対必要。高齢化が進むなか、市内の急病ベッドを163床減らし、病院の空白地をつくる計画は許せません。

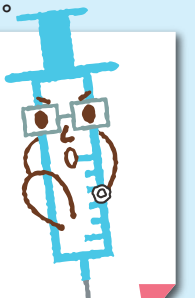


いったん 立ち止まれ!

この病院計画は、2016年12月13日に協和会から協力依頼文をもらい、2017年5月1日の新聞報道・発表となったと説明していましたが、2016年7月に前市長の指示で協和会と話し合いをはじめていたことが明らかになりました。2017年度予算委員会まで、協和会から土地代17億円が入ると繰り返してきた市当局は、市民・議会に虚偽の報告をしていたこととなります。

病院の管理・運営を委託する指定管理者が協和会に決まった途端、98億円のコスト増で274億円(別途利子81.5億円も必要)。当初案からキセラ川西センター109.5億円増、北部診療所11.5億円減となり、駐車場はわずか20~30台、新病院建設地に協和会が購入した土地を含むなど、後から後から異常な計画・実態が明らかになっています。

伊丹市や三田市でも病院の統廃合が検討されています。川西市は、拙速に進めるのではなく、近隣の医療環境の変化を注視し、市民の声や願いをしっかりと受け止め、市財政に応じた病院計画に改めるべきです。



病院存続を求める声や願い、19,300筆を超えた署名の重みをしっかりと受け止め、3町を含む市民の命と尊厳を守るために、北部の病院をなくさないよう自治体としての責務を果たすべきです。

市の財政が厳しいからと北部の病院をなくす一方で

- キセラホール・プラザ (指定管理) **98億円**
建物63億円 指定管理32億円 利子3億円
- 市・病院構想(案) **355億円**(利子含む)
- 住宅街区(中央北地区)整備事業に **350億円** とん挫
- アステ川西管理会社支援に **15億4,000万円**(2013年)
長期貸付 5億円 (20年間無利子・返済猶予12年)
アステ6階ホール購入 3億300万円
施設改修費 2億3,700万円
損失補償 5億円 (2017年度末残高4億7,300万円)
- パーティ貸付 **10億1,000万円**(2017年度末)
4億3,000万円は2028年まで償還猶予。その後の償還計画は不明
毎年3,460万円を賃料・管理料として支払っている



